

## IEA石油市場レポートの概要（2015年10月13日公表）

（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 原油価格は、9月に比較的安定的に推移した後、米国の生産減や緊迫度を増す中東情勢を見込んで10月初旬に上昇（回復）。レポート記述時点での原油価格は約\$51.90/bbl（ブレント）、約\$48.80/bbl（WTI）。
2. 2016年の世界石油需要の伸びは、2015年の5年間で最も高い180万b/dよりは減少し120万b/dになる見通し。これは最近の（低い）価格の支えが失われることが見込まれるため、需要が長期トレンドにより近くなる結果である。最近のマクロ経済見通しの引き下げも影響している。
3. 9月の世界の石油供給は、9660万b/d近くで安定。これは、OPEC非加盟国の生産減がOPEC加盟国の生産増により相殺されたため。OPEC非加盟国の占める割合は、生産量全体における180万b/dという年間増の40%以下となった。低価格と急傾斜の支出カーブ（その結果としての投資減）は、2016年にOPEC非加盟国における約50万b/dの生産量削減につながると見込まれる。
4. OPEC加盟国の原油供給は、9月に9万b/d増加し、3172万b/dとなった。これは、サウジの供給減を記録的なイラクの生産増が上回ったことによる。将来の需要増見通しの減速とOPEC非加盟国の生産微増見通しは、2016年におけるOPECへの需要を先月の本レポート見込みより20万b/d引き下げ、3110万b/dと見込む。
5. OECD諸国の石油在庫は近年の積み増しを更に続け、8月に2880万b/d増加し、8月末には29億4300万b/dとなっている。この積み増しの数字は、この月の積みまし量の5年間平均である1500万b/dのほぼ2倍だったことから、平均レベルを上回る在庫量は2億400万bに拡大した。
6. OECDと旧ソ連邦における季節的な定期補修の始まりは、9月に世界の精製稼働を190万b/d引き下げ、7940万b/dとなった。（精製設備の）稼働は特にアジアと中東において引き続き顕著に力強く、1年前と比べて世界の処理量はおよそ2百万b/dの増となった。